

各 位

会 社 名 株式会社マネーパートナーズグループ  
 代表者名 代表取締役社長 奥山 泰全  
 ( J A S D A Q コード8732)  
 問合せ先 取締役CFO 中西 典彦  
 (TEL. 03-4540-3804)

### 前年同期の実績値（連結・個別）との差異に関するお知らせ

平成24年3月期（平成23年4月1日～平成24年3月31日）の業績見通し（連結・個別）と前期実績との間に差異が生じたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成24年3月期連結業績見通しと前年同期の実績値との差異

##### (1) 連結

(単位：百万円)

	営業収益	純営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (A) (平成23年3月期)	8,981	8,930	1,015	990	515	円 銭 1,676.56
当期業績見通し (B) (平成24年3月期)	7,671	7,513	549	527	337	1,121.12
増減額 (B-A)	△1,309	△1,417	△466	△462	△177	—
増減率 (%)	△14.6%	△15.9%	△45.9%	△46.7%	△34.4%	—

##### (2) 個別

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (A) (平成23年3月期)	769	194	191	211	円 銭 688.62
当期業績見通し (B) (平成24年3月期)	528	△16	△19	71	236.09
増減額 (B-A)	△240	△211	△211	△140	—
増減率 (%)	△31.2%	—	—	△66.4%	—

## 2. 差異が生じた理由

### (1) 連結

当期の外国為替市場は、前期と比べ米ドル/円をはじめとする主要な通貨においてボラティリティが低下し、これらの要因に加え平成23年8月に実施された第2次のレバレッジ規制（25倍）の影響もあり国内の外国為替証拠金取引全体の取引高は前期比約10%減少いたしました。このような状況の中、当社グループは、スプレッドの縮小を含む様々な取組みにより外国為替証拠金取引の取引高の増加に努めましたが、業界内における競争激化の影響も加わり当期の取引高は前期比約6%減少の9,285億通貨にとどまりました。営業収益の当期見通しと前期実績との差異は、これら取引高の減少に加え、スプレッド縮小等による取引高当たり収益率の低下によるものであります。一方、営業利益の当期見通しと前期実績との差異は、営業収益の減少の一方、変動費を中心に販売費・一般管理費が減少したことによるものであり、経常利益及び当期純利益の差異も同様の理由によるものであります。

### (2) 個別

当社個別業績見通しと前期実績との差異の主な理由は、連結業績見通しと前期実績との差異が生じた要因と同様の理由により子会社である株式会社マネーパートナーズの業績見通しが前期実績を下回ったことにより同社からの受取配当金及び経営指導料が前期実績と比べ減少したことによるものであります。

以 上